

## 令和元年度第3回門真市総合教育会議議事録

**日 時**：令和2年3月24日（火）午後3時00分から午後3時53分まで  
**場 所**：門真市役所本館2階 大会議室  
**出席者**：宮本市長、久木元教育長、長澤教育長職務代理者、土川委員、高橋委員、松宮委員  
**関係者**：下治副市長、日野出副市長、邊田副教育長、満永教育部長、西口教育部管理監、三村教育部総括参事、中野教育部次長兼教育総務課長、峯松学校教育課長、隈元社会教育課長兼図書館参事、牧菌図書館長、渡辺教育総務課参事、植原学校教育課参事、東谷教育総務課長補佐  
**事務局**：宮口企画財政部長、河合企画財政部管理監、良企画財政部次長、高田企画課長、船木企画課長補佐

### 開 会

**司 会**： 定刻となりましたので、会議を開催させていただきます。  
本日は、ご多忙の中、令和元年度 第3回「門真市総合教育会議」にご出席いただき、ありがとうございます。  
本日司会を務めます、企画財政部企画課長の高田でございます。よろしくお願いいたします。  
はじめに、本日の会議は、「新型コロナウイルス感染症」の拡大防止のため、ご出席の皆さまにはマスクの着用をお願いしております。  
ご協力をよろしくお願い申し上げます。  
本日の進行につきましては、資料の確認が終了するまでは、私の方で進めさせていただきます、その後、主宰者である宮本市長による議事進行となりますので、よろしくお願いいたします。  
また、ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押して行っていただきますようお願い申し上げます。  
それでは、開会にあたり、宮本市長より一言ご挨拶を申し上げます。  
よろしくお願いいたします。

**宮本市長**： 本日は大変お忙しい中、令和元年度第3回門真市総合教育会議にご出席賜りましてありがとうございます。  
また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止につきましては、様々なご尽力いただきましてありがとうございます。本市といたしましても、

市民の皆さまの不安や負担を和らげることができるよう、迅速な対応と情報発信に、現在、努めておるところでございます。

さて、先日、令和2年門真市議会第1回定例会が閉会し、令和2年度予算が成立したところです。令和2年度におきましては、選挙などの関係から新規事業等を控えた「骨格的予算」としてありますが、副食費無償化の範囲の拡充であったり、小中学校における一人一台の学習用端末の整備、水泳授業に民間活力を導入、トイレ改修、ロボットやプログラミングキットを活用したプログラミング教育など、とりわけ子どもたちの教育環境の改善に関わる事業においては、重点的に取り組む事業として予算配分したところがございます。

引き続き、子どもを真ん中においた施策を推進してまいりたいと思っております。

また、門真市第6次総合計画の計画期間が令和2年度からスタートいたします。

新たな総合計画に掲げるまちの将来像である「人情味あふれる！笑いのたえないまち門真」をめざし、10年後、20年後先を見据えた、社会情勢の変化に対応できる市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

本日は、門真市第2期教育大綱の策定に向けて、忌憚のないご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくようお願い申し上げます、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

**司 会：** 次に、門真市教育委員会を代表いたしまして、久木元教育長より一言ご挨拶をお願いいたします。

**久木元教育長：** 教育長の久木元でございます。教育委員会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

先週、議会も終了いたしました。市長のお話もございましたけれども、教育におきましても、さまざまな議論がされたところがございます。

門真市第6次総合計画のお話もございましたが、これから先10年の教育を見据えた議論ができたものと考えております。

GIGAスクール構想、あるいはまた再編整備の話も進めることができ、門真の子たちの未来が、少しは展望が開けてきたかなという、そういう気がしております、嬉しく思うところがございます。

さて、新型コロナウイルス感染症問題でございますけれども、学校現

場に大きな影響を与えておるところでございます。

4月からの再開もまだ不透明な状況でございます。

ただし、今回改めて痛感いたしますのは、学校の持つ多面的な役割が再認識されたといいますか、社会が学校に依存する実態、そういったものを実感しているところでございます。

学校の果たすべき社会的意義を、再認識しながら、今後とも学校教育の推進に努めてまいりたいと考えております。

本日は第2期教育大綱、門真の教育の方向性を見据える大切な会議でございます。

これからの教育の指針となるものだけにしっかりと議論させていただけたら、嬉しく思います。よろしく願いいたします。

**司 会：** それでは、議題に入ります前に本日配布の資料の確認をさせていただきます。

- ・次第
- ・資料1 門真市第2期教育大綱（案）に係るパブリックコメント結果について
- ・資料2 門真市第2期教育大綱（案）

以上でございます。

お手元に全て揃っておりますでしょうか。

揃っているようですので、これより議事の進行を宮本市長にお願いしたいと存じます。市長よろしく申し上げます。

**宮本市長：** それでは、私の方から進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

それではまず、案件1の門真市第2期教育大綱（案）に係るパブリックコメント結果について事務局より説明をお願いします。

**事務局：** 門真市第2期教育大綱（案）に係るパブリックコメント結果につきまして、ご説明いたします。

お手元、資料1「門真市第2期教育大綱（案）に係るパブリックコメント結果について」をご覧ください。

門真市第2期教育大綱（案）につきましては、令和2年2月4日から3月3日までの期間でパブリックコメント手続を実施いたしました。

案につきましては、市ホームページに掲載のほか、企画課、市情報コーナー及び市内公共施設に意見箱とともに設置した上で実施いたしました。

パブリックコメントを実施した結果、受け付けした意見は1件ございました。

ご意見に対する考え方についてご説明させていただきます。

提出された意見「障がいの別によって分け隔てられないということだけでなく、人種・国籍・性自認・性的指向等の別によっても差別を受けず、安心して教育を受けることができる町づくりを行う旨、併記すべきだ。」という意見に対しまして、分け隔ての無いすべての子どもへの教育については、基本方針2に含んでおりますものの、より分かりやすい大綱にすることが大切だと考え、門真市第6次総合計画に掲げる基本施策のなかから、特に関係する基本施策「平和と人権の尊重」を教育大綱（案）の基本方針に追加しました。

お手元、資料2「門真市第2期教育大綱（案）」をご覧ください。

資料を開きまして4頁の右上部に、基本方針6として、「平和と人権の尊重」を追加しています。

案件1の「門真市第2期教育大綱（案）に係るパブリックコメント結果について」のご説明は以上でございます。

宮本市長： 説明は以上であります。それでは、教育長または教育委員のみならず、何かご意見ございませんでしょうか。

松宮委員： この教育大綱の変更といいますか追記ということになりますけど、「基本方針の6」非常に重要なことで、適切に対応されているというふうに考えております。

特に、教育の機会均等、平等、公平性ということ。

そしてまた、納税者の視点からしてもですね、こういったコメントを受けて、こういうかたちで改正・追記をされるということは適切である

というふうに判断しております。

宮本市長： はい。ありがとうございます。  
他にございますか。  
はい。長澤委員。

長澤委員： 大綱そのものにつきましては、かなり検討をしてきたわけで、これでもいいと思うんですけども、パブコメが極めて少ない。  
一件だけ、非常に寂しいなという感じがするんです。  
やはりパブコメの方法を工夫していく必要があるのではないかなという感じはしております。

宮本市長： パブコメが少ないということですけど、他のケースであったら、結構多いもんなんですかね。

事務局： 以前に、企画課の方でさせていただきました。門真市第6次総合計画の方で、概ね10件ぐらいでして、ここ最近でやらせてもらったので一番多かったのが、21件です。  
あとはだいたい1件あたり、なかったりというパターンが、今のパブコメの状況になっています。

宮本市長： ちょっとその辺のところは、他の自治体の状況なんかも勘案しながら、多い少ないというのはそれぞれケースもあるだろうとは思いますが、ちょっと考えていきたいと思うんですけども。

長澤委員： パブコメ少ないことは重々承知しているのですが、もし組織的に反対するような人が出てくれば、とても増えます。これは過去の例からも明らかです。  
組織だって何も無かったら、1、2件が普通ですね。  
だけどそうすると、パブコメに意味があるのかなという感じがしています。感想ですが。

宮本市長： ありがとうございます。  
他にございますでしょうか。  
よろしいでしょうか。  
それでは、門真市第2期教育大綱案に係るパブリックコメントの対

応につきましては、事務局提示の案とおりに、させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

はい。それではお願いいたします。

宮本市長： それでは次の案件に移りたいと思います。

案件2の門真市第2期教育大綱案について、事務局より説明をお願いします。

事務局： お手元の資料2、門真市第2期教育大綱案をご覧ください。

この案はパブリックコメントの結果に係る、市の考え方を踏まえて作成したものでございます。

この案のとおり、事務局において市長まで最終の意思決定を図っていきたいと考えております。

また、最終の意思決定後、教育委員の皆様にも門真市第2期教育大綱をお渡しするとともに、本市のホームページ等で公表していきたいと考えております。

以上でございます。

宮本市長： はい。ありがとうございます。

ただいま説明につきまして何かご意見ご質問ございますか。

(なし)

ないようですので、それでは案につきましては、事務局の説明のとおりとさせていただきます。

宮本市長： それでは次の案件に移ります。

案件3「その他」であります。私からよろしいでしょうか。

まず、生涯学習複合施設についてでございます。

前回ですね、ご意見をお願いさせていただきました。生涯学習複合施設の運営手法について、令和2年1月23日に賛同の旨のご回答いただきまして誠にありがとうございます。

その後、門真市図書館条例改正案及び図書館の指定管理に係る予算につきましては、令和2年門真市議会第1回定例会におきまして、無事議決されたことを報告させていただきます。

今後もですね、しっかりいただいたご意見を受けとめまして、教育委員会とともに協議しながら適切に生涯学習複合施設の運営に努めてま

いりたいというふうに考えております。

この点に関して、何かご意見等がございましたらいただきますが、よろしいでしょうか。

やっぱりですね、いろんな形でしっかりご議論をいただいた結果を受けまして、指定管理含めてですね、あり方っていうのは、キッチリやっていきたいというふうに思っておりますので、その点、改めて御礼を申し上げたいと思います。

続きまして、もう一つの点がですね、学力向上についてございます。

私から、今般せっかくの機会ですので、各委員の皆さんからもいろいろ意見交換をさせていただきたいと思っております。

まず、学力の向上というのは、門真市にとっては非常に重要な目標だと思っております。

それはもう、おそらく皆、意通にしている部分だと思っておりますが、ただ門真の課題が学力にあるだけじゃなくって、門真の地域性であったりとかと特性的なところも含めて、厳しい家庭環境であったりとかですね、その辺は、平成 28 年のときに大阪府の実態調査でさせていただいた際に、子どもの貧困対策の必要性であったり、また、今そこに合わせて、子どもの未来応援ネットワーク事業ということで、門真市は展開させていただいております。

私自身も、教育にとって一番重要なことっていうのは学力だけに限らず、体力であったり、人間関係の構築であったりとかですね、しっかり社会の中で生きていける力、もしくは社会が変容していくことにちゃんと適応できる力っていうのは重要なところだと思いますが、やっぱりですね、その一つの基礎となるのがやっぱり学力でありまして、私自身、市長就任当初から教育にはしっかり力を入れたいと思うものの、学力だけが前に先行して進むのもどうか。

尚且つ、門真において先ほど申し上げますような、いろんな課題があるところはですね、しっかり手を当てていきながら、それと同時に、学力も併せて引き上げていくことが出来ればなあというふうに思ってきたところでもあります。

ただ、今般、門真市第 6 次総合計画の中で、学力に関しては全国平均を今後超えていくというのが、きちっと目標設定がされました。

これは 10 年間の計画であります、当然これ 10 年かけてっていう訳にはいかないだろうと思っております。

10 年計画ではあります、真ん中の 5 年には見直しのタイミングっていうのがやってきます。

やっぱりそこまでに、ある程度、掲げられた目標にちゃんと到達できているかどうかというの、行政を預かる者としては、できない目標設定を置くことは、やっぱりなかなかできないだろうと、いうふうに思っているところでもありまして、今回、施政方針の中でもですね、一つの目途として、3年後というのを申し上げさせていただいたところ

です。  
この点なんかのところも含めてですね、皆様方の学力向上にかかわる部分、また、そこに関連する部分で、ご意見等を聞かせていただければ

など。  
また、門真の現状の学力の状況なんかを、どのように認識しておられるかを含めて、お話聞かせていただければと思っております。

よろしくお願いします。

**長澤委員：** 施政方針を見させてもらいましてね、極めて厳しい課題を突き付けられたなという感じです。

当然、学力は向上を図らなければならないというのは当たり前のことなんですけれども、改めて、我々教育委員と事務局とで、検討する時間が必要だと思うんですよ。

今私の個人的な意見として、こうしたら学力が上がるとか言えないので、もう少し検討する時間をいただきたいなと思っています。

**宮本市長：** はい。ありがとうございます。

他に何かございますか。

はい。松宮委員。

**松宮委員：** 市長も申されましたように、学力そして教育の成果っていうのは学校教育のみで完結するものではなく、やはり家庭の教育環境であったり、そして社会の問題であったり、貧困の問題であったり、非常に多様な要因が重なっている複雑系の中での成果を求めていくということになります。

門真市の方におかれましても、様々な教育施策、これは学校教育に直接かかわるようなもの、例えば、今回出されておりますGIGAスクールであったりそういう教育環境の改善とか、ということを中心にやられたり、また、家庭教育の質を高めていくとか様々な施策を打たれている。

そういう中で実際に因果関係が分かっているようなものっていうの

はなかなか無いのが現状です。

特に、私が関わらせていただいております英語教育に関しましても様々な施策を。教員研修であったり、教員の先生方において対応できるような課題といったようなものもやっているわけですが、いずれにしても、あまりにも複雑な要因が絡まっているために、一つのことでは改善するということがなかなか出てこない。そういう苦しみを持っております。

そういった中で、3年間という期限を区切って検証していくことにおいては、新たな目標が設定されていると認識しております。

そういった意味で、学校教育でできる部分、そして家庭教育、社会教育そういった幅広い社会として、ひとりの児童・生徒・子どもを育てていくというところで、再認識をしながら、新しい教育の施策といったようなものに結びつけていくことができればと。

特に、常に問題が出た場合には教員研修であったり教員・授業の改善ということを直接的に結びつきがちなんですけれども、それ以上の因果関係を持つような要因というものがあります。

そのあたりはもう、地下に貧困ということもありますし、社会、家庭環境もありますけれども、そういったところを、つぶさにあぶり出しながらですね、それに対する対応策を打っていくということも求められているのかなというふうに考えております。

宮本市長： はい。ありがとうございます。

他に、はい。教育長。

久木元教育長： 門真の教育でですね、これまでどういうことを学力向上に向けて取り組んできたかということと、それとともに目標設定について、松宮委員もおっしゃいましたが、いろいろな分析ですね、何がどうなっているのか、分析について、少しだけお話しさせていただければと思います。

まず、これまでの取組の経過なんですけれども、やはり学力向上は我々にとっても非常に大きな課題ということで、かなり前からいろいろな取組をしてきております。

平成5年の段階から、研究指定校制度という形で、教員の授業力を高めるための制度を導入しております。

あと、最近になりましたら、全国の学テが始まってからでございますけれども、平成24年からは、小学校3年生・4年生・5年生の学習到達テスト、これも門真独自に行っております。

あと平成 26 年からは 35 人学級ですね。5 年・6 年・中 1。これも、結構先駆的な取組でありますけども取り組んでおります。

でまた、平成 27 年からは K a d o m a 塾。塾に行けない子たちですね。そういう子を支えるというサポートする。そういった施策も行っております。

平成 30 年からは学校サポートスタッフということで、教員の多忙化をどうやって解消するかという形で、チーム学校として何が出来るかというかたちで、サポートスタッフの制度を採り入れさせてもらったわけなんですけども。

学力向上に向けては、本当に子どもに直接教えるというだけでなく、いろんな複合的な要素をどうやって高めるか。教員の力を発揮させるため、どういう手だてが必要かということを考えてきて、我々が今まで取り組んできたのかなというふうな、想いがしているところでございます。

ここ数年でございまして、府平均におきましては、徐々にではございますが、若干近づいてきているということでございまして、それが今申しました施策が反映され、成果があらわれているということなのか、その辺の因果関係は正直分かりません。

あと、今まで申しました施策も、個々どういうことは検証できるのかということも、きっちり我々としてやってきたわけではなく、継続的というか経年的に続けているというのが実態のところではございます。

そういった取組をする中でですね、評価については様々あるかと思っておりますけども、今回市長が仰られました、目標設定についてでございますけども、議会の答弁でも申しましたけども、これは市教委と学校現場が一体となって、目標を導入して、子どもたちの学力向上に邁進するという我々の決意であると、そういうふうには受け止めている訳でございますが、人間というものはやはり目標無しにはなかなか努力できないと思っております。

スポーツに例えてどうなのかとも思いますが、サッカーやラグビーでも、昔は強豪国と日本が対等に戦えるなんていうのは夢のような夢であった。ワールドカップに出るとすることも夢であった。

でも、やはり出るためには何が必要かというようなことを目標に掲げてですね、戦略的に、どういうことに投資しなければならないのかを、キッチリと組織としても考えて、対策をとって、今日にいたっているのかなと思います。

そういった意味では、私も目標を掲げるということは本当に大切だと思っております。

尚且つ、教育現場でもですね、教員にも自己申告というか目標を持たせておりますし、子どもたちにも「目標を持って」というふうに指導しておるわけでございますので、目標を設置することについては、やぶさかでないと思っております。

また、門真の子どもたちの課題ということで、学力だけでなく、自尊心あるいは生活リズムという三つの大きな課題がございました。いまでも市長のご指摘もございました。

私どもの思いは、やはりその三つがバランスよく成長するということはずっと目指してきたわけなんですけれども、その中で、今回その学力に特化してやるということはどうですか、それはそういうやり方もあるのかなど。

何から手をつけたらいいかちょっとわからない中で、取っ掛かりとして学力と。これが向上することによって自尊心が高まったりとか、あるいは生活リズムが改善するとか、そういうこともあろうかと思えます。

そういう意味で、方法論の中で、学力をまず全面に打ち出したことについては、ありかなという感じがしているわけでございます。

ただですね、ちょっと心配されるのは、競争を前提とした目標というのは、大きな2つの課題があると思っております。

1つはですね、目標至上主義の弊害が出てくる可能性があると思っております。

例えば、これを達成できなかった場合、誰の責任になるのか、ということなんですけれども、学校現場の校長に責任があるのか。また校長にノルマを与えることがどうなのか。

あるいはこれ全国の例でもそうなんですけれども、3年後に成果が表れるために、優秀な教員を当該学年に充てるとか、そういう姑息なことをすること。

あるいは他市、他府県の例ではですね、やはり不登校の子は受けさせないとか、あるいは支援を要する子は別の日に受験させるとか、そういう噂は聞いております。

あんまり成果至上主義を徹底しすぎると、そういった方向へ走っていかないかなど、ちょっと危惧がひとつございます。

それとあと、一過性に終わらないということが大事だと思っております。他府県において、小学校で非常に劇的に上がった県がございまして。

でも小学校だけ上がって、中学校になったら全然そうじゃない。これどうなのかと。

結局は、学テだけの対応になってしまっていて、本質的な子ども力の育成

につながる政策として正しかったのかどうか、そこの検証が必要だ  
と思うのですけども、そういったところが、やっぱり我々も注意してい  
かなければならないのかなと思っております。

それともう1つ、目標設定の問題点でございますけども、現実と乖離  
した目標設定というものがどうかということなのですが、あまりに  
も、我々挑戦者として、もう夢のような目標であれば、不信感というか、  
「それは無理だろう」というような、そういう想いが最初に起こりかね  
ず、やはり学校現場においては「頑張る力」っていうのが、後ろ盾、支  
える力として必要だと思います。

それが、現場の先生らが「やっぱり達成可能だな」と思えるような目  
標設定しなければならないのかなというふうに思っております、そう  
いう意味です、これは市長にお願いしたいのですけども、やはり目  
に見える具体的な先行投資といいますか、こういうものがあるから頑張  
れというような、その後ろ盾のようなものをですね、見えるような形で  
お示しいただきたいなというふうに思っております。

それにより、ようやく目標が自分のものとして、我が目標として現実  
化するのかなという気がしておるところでございます。

それとあと、3点目でございますが、学力が上がらない原因をどこに  
見出すかという、我々の認識の問題でございますが、実は昨年、内々で  
ございますけれども、我々もいろんな手立てを打ちながらも成果が上  
がらないところに、どういうところに問題があるのかなというのを、内々  
で研究したところでございます。

教員に問題があるのか。教員多忙化、経験不足、改革疲れなど、いろ  
んな課題がありますけども、教員自身に問題があるのか。

それとも子ども自身に問題があるのか。いじめ、不登校、あるいは支  
援を要する子ども、学びへの意欲とかですね、本当に多様な課題がある  
中で、子ども自身がどうなのかと。あるいは、家庭の話が先ほどからあ  
りましたけども、家庭はどうかと。子どもへの関わり、あるいは文  
化資本とか、就学前教育とかですね、そういったものについての、家庭  
の関わりについてはどうかと。

あるいは我々に踏み込みまして教育委員会にも問題があるんじゃない  
かとか、そういう考えを話しました。我々の学校現場に対する指導が  
出来ているのかどうか、あるいはチェックができていないのかどうか、ほ  
ったらかしになっていないか。

それとあと、もう一つ踏み込みまして校長先生にも問題ないのか。学  
校経営するトップとして、本当にそういう課題を認識した中でリーダー

シップを發揮されているのかなと。

そういった面で、いろいろと考えてみました。

教員の問題につきましてもちょっと申しましたけど、本当にいま経験不足の教員が増えてきております。若手の増加とともにですね。

団塊の世代の退職に伴って、ちゃんと教えてくれたりする人がいなくなったという状態で、これは我々としても、どの様な方法で教員の指導力をつけるかというのが大きな課題だと思っています。

それと、市教委の問題。同じ人口規模の自治体と、市教委の指導主事の数を比べてみたのですけども、やはり少ない。なぜなのかなということなんですけども、教育予算が、やはり学校現場予算に回っていないという実態もあつたりですね、他市では英語教育のための、ジェットといいますか、そういう指導員を確保するために労力を使っているなかで、我々はそういうのが出来てない状態です。

人が少ないというのもあるんですけども、予算もないというなかで、そういった課題もあるということですね。

そういう中で、我々も市教委の体制がなかなか無いなかで、施策の総括・検証が進んでこなかったのかなという気もしております。

校長をはじめ学校現場に関しましてはですね、エビデンスに基づく、学校経営が出来ていない。自分のところの課題がどうなのか、自分たちの子どもの課題がどうなのかということが、感覚でやっている。

そういった部分では、わたしもここ3年になるわけなんですけども、やっぱりいまの門真市教委の課題、学校の課題というものがだんだん分かってきましたので、やはり評価・比較できるようなエビデンスを持たなければならないと思っております、学校教育の自己診断なんかでも、項目はバラバラだったんですけども、それを統一することによってようやく見えてくると。そんなことをいまやっているところでございます。

それと、先ほどから出ております子どもと家庭の問題でございまして、本当に厳しい状態でございます。正直、もう小学校1年生の段階で、差が出ているのではないかと。

いろいろな各教育社会学者の研究なんかを見ていましたら、就学前教育における、子どもへの言葉かけとかですね、習い事とか社会体験とかですね、いろいろな差が出ていて、「もう小学校1年の段階で、もうスタート段階で差がありますよ、これが日本社会の現実ですよ」と、そういったことをいろいろな研究者がいつてます。

そうすると我々が教育の現場で何をしていかなければならないかなということなんですけども、学校教育だけでなく、社会教育とか家庭教

育とかそういった部分でも、やっぱり、カバーといいますか、そういったことまで求められているのか、実際にそれが出来るのかどうかはちょっと疑問というか課題もありますが、そういったことまで手を付けない限り、本当に競争という意味での同じ土俵に立つことは、なかなか出来ないのかなというのは、議論しているところでございます。

そういったなかで、我々としては家庭や子どものせいにはしない、そういう想いで学校現場も一体となって取り組んでおりますので、ぜひ市長にも目標に向かって「頑張れる」というような、ちょっと見えるような先行投資の部分をご支援いただけたらという想いがしているところでございます。以上です。

宮本市長： 他にございますか。  
どうぞ土川委員。

土川委員： みなさんのご意見を聞きながらメモをした部分なのでまとまっていかもしれないですけども、まずコロナの感染対応の要望で学校現場が止まったことで、卒業式とかそういうものが、その子の人生とか親にとってすごい大切なものだなということを再認識したところで、大切にしていかなければならないなと感じました。

最近、学校適正化の方針を出されておりますけれども、それを読みながらも考えたことなんですけども、学校というのは子どもだけではなく、子どもを通して親同士の繋がり、ひいては地域の繋がりという社会を作っていく根本的なものであるという気がして、大切にしていかなければならないというふうに感じております。

学力向上ということなんですけども、授業改善とか色々なことを教育として体験させていただきましたけれども、他府県・他市の例をみて、何か目標をもって、それを漸進的に取り組むことについて、子どもの想像力であるとか、普及力であるとか、力をつけさせていくというような取り組みがよくされていると思います。

やはり子どもにいま一番大切なのは、目先の学力もそうなんですけども、計算とか漢字とか、そういうのも大事なんですけども、自信をもって、何かイベント的なことでもいいので、何かをして、それによって自信をつけさせていくということが、将来に繋がっていくのではないかなと感じています。

それをどういうふうにして提案していったらいいかということなんですけども、いま学校間の先生たちの繋がり、みんなでこういう風にや

っていこうというのを考えられているのかどうかというのが、ちょっと、私はいま分からないです。

たぶんそれをやっていくには、ゆとりを持った時間的なものであるとか、先生たちのゆとりのため、学校単位ではなく市をあげて何か企画みたいものが必要ではないかなというふうに感じました。

それは、教育委員会からおろすのではなくて、下の方で、時間がかかるかもしれませんが、「こうやってやればいいのではないかと」というような工夫を、先生たちが提案してくださればいいなと思うのですけれども、そのためには教育委員会のほうの人員的なゆとりも必要であるし、というように感じました。

**宮本市長：** 今、土川委員が言われる「教育現場の工夫」とか繋がりってというのは、ちょっと希薄化している傾向というものはあるんですか。  
はい、満永部長。

**満永部長：** 希薄化ということよりも、むしろ小中一貫教育とかですね、例えばこの間、四中に行ったときなんかは、「四中は非常に進んでますよ」というようなことを教頭先生・校長先生がおっしゃってました。

いま、小中一貫教育をやっていくという中で、小中一貫教育は実は縦の繋がりではなく、校区の小小連携だということで、かなり集まって授業研究とかやっているんです。

そういうことで、かなり意図的に繋がりを作っていこうとか、あるいは校区の中で様々な取り組みをやってきてます。テスト期間中には小学生も勉強しようとかか。

ただ土川委員おっしゃるように、時間がなかなか取れないですね。

3校の先生あるいは4校の先生が集まるとなるときに、その時間がなかなか取れない。前年度からきちっと日程を調整しておかなくてはならない。

ところが、いろんなことが起きます。

不審者が出てきたとか、今回のコロナウイルスとか、かなり学校現場でいろんなことがあります。それでなかなかできないということもあって、集まって一緒にやらなければならないという時間を取っているんですが、その時間をどうとっていくか。

教員の多忙化解消というのは、これから教員は時間外勤務を月 45 時間以内にしていかなければならないという中で、どこまでその時間をと

っていくか。

つまり、スクラップアンドビルドですか。学校行事もどれだけ減らしていくのかっていうことと、やはりチーム学校としての様々な人材とか地域の人材とかですね、そういう方々にもいかに力を借りながら、いろんな目で、よってたかって子どもたちを見ていくような体制をとれるかということと、我々教育委員会自体としても、やはり学校と一緒にあって様々な学力向上ができるような、そういう人員体制とかをとっていく必要があるだろうし、今年はセンター長を中心にアクションプランを作っていくてくれることと思いますけれども、そういう観点も含めながら、アクションプランを作っていくかなければならない。

当然の現場の意見をしっかり聞きながらやっていかなければならないなと思っています。

宮本市長： 他にいかがでしょうか。  
どうぞ、高橋委員。

高橋委員： 今までご意見いただいた以上の事は何も申し上げられないんですけども。

これは意見というか、市長に対する要望という感じになると思うんですけども、やはり今回、かなり学力向上に対しては高い目標設定されたなというふうに感じていまして、目標というのはやっぱり絵に描いた餅ではだめだと思いますので、これを達成するには、それなりの方法も考えていかないといけないんですけども、少なくとも、繰り返しにはなるんですけど、私も3年間、教育委員させていただいて、いろいろ感じるころはあるんですけど、門真の場合は圧倒的に、教員とかですね、その辺りのマンパワーが足りないのではないかと。

目標を達成するにはやはり人の力というのは、非常に重要だと思います。

マンパワーの補充と、それに対するやはり予算をご配慮いただけたらなという風を感じています。以上です。

宮本市長： ありがとうございます。

いろいろとご意見も含めていただいておりますけれども、私の方で、3年後を一つの区切りとしての目標として話をさせていただいてますが、これは総合計画の中で明確に、それぞれ議論の中で積み上げて、総合計画の中で「全国学力テストの平均への到達」というのが設定

されています。

ですので、あくまでもこれは、市全体の中で、また教育委員会も含めて議論されてきた中での目標設定だと思うんですね。

それを確実にクリアをしていこうと思ったときに、10年かけてこういう計画立てていく、そして「だんだん上がっていく」というわけではないと思うので、なおかつ先ほど一番始めにお話させていただいたように、やっぱり5年で中間見直しの期間があるわけで、やっぱりそこまでにはある程度の目途がつけてないと、それを確実にクリアしていこうと思えば、ちょっと手前に倒していかないと、それこそ絵にかいた餅。

私自身、本当に一番初め頃から総合計画を作っていく、できるだけあんまり細かなことは書き過ぎないようにしようとか、そうしてやっていかないと総合計画っていま、作っても作らなくてもいいようになっているわけですけれども、これやっぱりあえて作ってですね、本当に総花的な、「絵に描いた餅」の計画にはならないようにしていかなければいけないなというふうに思っています。

私自身は総合計画に対してそういう思いがある中、学力の向上と同時に全国の平均の達成っていうのは、全体で掲げられた目標設定だっていうのを、まずご認識いただきたいと思うんですね。

その上で、学力のうんぬんに関しては、ちょっとこれ本当に私の個人的な考え方だけなんで、ここを誤解のないようにと思うのですが、門真の学力が低いというか、課題がある元々の原因っていうのは、非常に、学校現場であったりとかですね、教育委員会含めて、非常に大きな責任があったと私は思っているんです。

私自身は、門真で教育を受けてきましたが、やっぱり中学校時代に、地元集中運動っていうのを展開されました。ここっていうのが門真の学力を下げた一番大きな要因ではないかなというのが、私個人としては持論を持っています。

やっぱり今ではちょっと考えられないような、進学に対しての不適切な指導が、門真の中に行われて、やっぱり進学したいとか、あの学校に行きたいとか思ったことが、全然叶えられずにやってきたっていうのは、現実としてあったわけです。

そこを直面した人間にとってはですね、やっぱり「門真で学校は通わせられへん」というのが実態的にはあって、本当に門真の所得であったりとか、家計の課題が表面化してきているっていうのは、バブルの崩壊以降なんですよ。

だから、もともとそういうふうな面で言えば、以前のあった問題と、

ここ近年 10 年 20 年ぐらい抱えてる門真の現状というのは、明らかにちょっと変容していると思いますし、もう地元集中運動が行われなくなって、もう 20 年以上たつわけで、今の現場の先生方にとってはですね、その話って過去の話ですけど、私なんかになると、実体験のある実態。

ここの責任っていうのは、誰 1 人何も果たしてないんじゃないかなと、その時に行われたことに対してですね、誰も反省というか、表面化されて出ているものって一切ないと。

ここっていうのは、そもそもあるんやっていうのは私の中では個人的に持っているもんです。

私が市長に就任させていただいて、一番初めから学力の向上は当然掲げてないわけじゃないですけども、でも無理な目標設定とかその辺のところに関しては、門真の場合、先ほど来申し上げますように、家庭がなかなか厳しい環境下にあたりとか、要保護にかかっている方の数であった、就援の数とかも、やっぱり他市域と比べては、たくさんいらっしゃるっていうのも重々わかってます。

そのために門真では現状、平均的な学科点数が取れる子以上に、やっぱり底割れ、ほとんど点数の取れない子、底割れしているっていうのは、勉強以前の課題のある家庭ですね、ここに関して、今は現状では保護課の方で健全化の事業であたりとか、例えばここしばらく進めさせていただいております「子どもの未来応援ネットワーク事業」とか、そういったところが進んできている中で、ある程度、完全ではないですけども、いろんな面でアウトリーチがかけられてるんじゃないかなと。

環境的には底が高くなってきてるんじゃないかなと私自身は思ってます、そういうふうなところができて初めて、ひとつ高い目標っていうのは、持つべき時期に今はきてるんじゃないかなというふうに思ってます。

これと同時にですね、これは以前からも教育委員会内含めて、個別先生方の中ではちょっとご議論させていただいたこともあったかと思うんですけども、これから本当に門真の中ではですね、まちづくりが進んでいきます。

やっぱり人口の急減とかいうふうなことで、そのへんのことっていうのは、住宅供給と大きな関係性があるわけなんですけども、ここから 10 年間の間に、門真の場合はいろんなまちづくりの事業が動いていきます。

そのときにやっぱりこれ、まちづくりが進んでいく過程の中でどういう方々が住まいになってこられるかって、これ教育とは絶対に切って切り離せない問題なんだと思っています。

だからまちづくりが進んでいくことと、よりよい教育が提供していきける環境できるっていうのが、連動していくもんだと私自身は思ってます、そういう面では、ある程度目標設定ができる環境にここ数年の中で段階的には踏んでこられたんじゃないかなとも思いますし、そういう目標設定をすることによって、目標を達成することが目的というよりかは、目標設定に向かって何をどう取り込むかっていうことがやっぱり本質的には一番重要なんだろうと思っておりますので、ぜひ、先ほど教育長の方からも多くの課題とか、多くの視点、いろんな観点からの考察もお話いただきましたし、それをこの総合教育会議の場でお話させていただいてますが、これをやっぱり全体が、前もちょっとお話したかもしれませんが、学校長だけじゃなくて、学校現場の先生方も含めて、いかに同じ認識でもっていただくか、また、これをわかりやすく目標設定をして、そこに向かって前向きに取り組んでいくことが、結果として子どもたちの教育環境を向上させるんじゃないかなあというふうに私自身は思っているところです。

そういうふうな面では、総合計画を含めてここから 10 年ぐらいの間に門真のまちづくりっていうのはですね、いろんな面で動いていきますし、その時に、器とかまちのあり方が変わっていくときに、やっぱり子どもたちの教育環境の向上というのは非常に重要なのかなというふうに思っておる次第です。

そのへんを十二分にご理解をいただいでですね、事務局含めてしっかりこの辺の議論を積み重ねてもらえたらありがたいかなと。

それに見合うような、目標を設定させていただいて、その目標をどういうふうにクリアしていけるかっていう議論を深めてもらうことが一番の充実になんじゃないかなと思っております。

この点含めて何かご意見等がありましたらお願いしますがよろしいでしょうか。

よろしいですか。では、ぜひ教育長に達成のご決意を。

**久木元教育長：** 市長が掲げておられる、これからの門真のまちづくりと教育。

それは本当に、私も素晴らしいなと思っております。

どちらかというのとは違って、両方がやっぱり住むことによって、お互い相乗効果というのですか、教育が良くなればまちも良くなるし、まちが良くなれば教育も良くなる、そういうふうな認識にあるわけなんですけども、我々としまして、これから再編統合含めて、先ほどよりありますように、学校というのが、市における、まちにおける、本当に中

核となるような施設と言いますか、ものであるということから、やはり我々が良い学校をつくるのが、まちのブランド力を高めるというふうにも思っておりますので、これをしっかりこれからの再編整備にむけて、すすめていきたいと思っておりますし、併せて、各学校における教育を高めるといいますか、教員が一丸となってそういう思いをもってやっていきたいというふうに思っています。

**宮本市長：** ありがとうございます。

この機会にですけど、最後に何かもう一言ということはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、その他の案件につきましては、他にご意見ご提案事項がございましたら。

よろしいでしょうか。

最後に事務局より何かありますか。

**事務局：** 今後のスケジュールにつきましてご説明させていただきます。

来年度の開催スケジュールにつきましては、特段案件がある場合を除いては、少なくとも決算及び予算時期に開催できるよう検討していきたいと思っております。

開催時期が決定しましたら、また追って連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

**宮本市長：** 4月から機構も変わってですね、教育委員会も一部体制ということで、学校教育がまさしく、一番の重要な課題となってまいりますので、ぜひ教育委員の先生方にもしっかりとご議論いただきましてですね、門真の学力、また併せて、教育の環境の向上に努めいただきますようお願い申し上げます、第3回の総合教育会議を終わらせていただきます。まことにありがとうございました。